



旅で紐解く直虎公の物語

其二 女領主、誕生

# 引間城

ひくまじょう

今川氏、武田氏、徳川氏による三つ巴の争いの後、遠江を制した家康公は、元亀元年(1570)に拠点を岡崎城から移転。引間城を取り込んで浜松城を築城した。また、秀吉公が最初に武家への仕官をかなえた逸話も残り、二人の天下人が出世の第一歩を刻んだ地として若き二公像が設置されている。

浜松市中区元城町111-2  
交通/JR浜松駅バスターミナル⑬⑭乗り場から遠鉄バス約5分「浜松城公園入口」下車、徒歩約2分。  
もしくは、循環まちバス「く・る・る」西ループ「東照宮入口」下車、徒歩約1分



現在は浜松元城町東照宮となっている。最近では「出世の聖地」と呼ばれ、参拝者も増えているという



鳥居の傍らにある石碑。最近の発掘調査では土壘などの痕跡や500点を超える土器が発見されている

## 運命を変えた城

要衝ゆえの激しい争奪戦の中、井伊家男衆は次々と命を落とす。残ったのは直虎公のみ。そして、女領主誕生という運命の扉が開いた。

「遠州念劇」と引間城

永禄3年(1560)の桶狭間の戦いで今川義元公と共に直虎公の父・直盛公も討ち死に。かつて直虎公の許婚だった直親公が井伊家の家督を継ぐ。

永禄5年には信長公と家康公が清州同盟を締結。今川領は「三州錯乱」「遠州念劇」と呼ばれる混乱状態に陥った。そんな中、家康公への寝返りを疑われた直親公は、釈明のため駿府へ向かう途中で謀殺されてしまう。

この混乱の折、激しい争奪戦が展開されたのが遠江支配の要、引間城だった。

女領主へと運命は動く

引間城主・飯尾連龍が家康公に



境内の灯籠にはハートマークがある。これは日本古来の魔除けの意味を持つ「猪目(いのめ)」の文様。最近ではここに触れると恋愛が成就するとの噂もちらほら

直虎  
新商品

### 橘赤の膳

直虎は女性でありながら、戦国の時代に遠江の井伊家を立派に守り抜いた人。「橘赤の膳」は地元遠州の食材を取り入れ、乱世に咲く赤い花のような直虎をイメージした御膳に仕上げられている。ぜひ、味わってみてはいかがだろうか。

○3300円/1食(ランチ限定・予約制)



[取扱店] ホテルコンコルド浜松「日本料理 堂満」 (株)ホテルコンコルド浜松  
浜松市中区元城町109-18 TEL053-458-6343 <http://concorde.co.jp/>

寝返ったことから戦が勃発。ここで亡き直親公の嫡男・虎松の後見を担う重臣、新野親矩と中野直由が討ち死にしてしまう。その直前には直虎公の曾祖父・直平公も引間城主の正室に毒殺されたばかり。この城に関わった井伊家男衆は次々と命を落としてしまったのだ。残されたのは直虎公のみ。そして、戦国時代に稀有な女領主が誕生する。ついに運命は動き出した。